

一般入試前期A日程1日目

英語

I

■出題のねらい

日常的な場面（誕生日のホームパーティでのプレゼント）についての会話の内容を正確に理解する問題です。単語や構文はきわめて基礎的なレベルなので、落ち着いて会話内の情報を的確にとらえましょう。「誰」が「どのプレゼント」を「どのようなラッピング」で贈ったのかについて、正確な分類が必要です。ゲストの人数が多いので、分類には時間がかかります。一覧表にするなど、情報を整理する工夫によって正答率はアップします。

■採点講評

どの設問も正答率は比較的高く、を除いて60%を超えています。ただし、すべて正解した人は23%程度です。比較的誤答が多かったは、ホームパーティに最初から最後まで参加していたのは誰かを選ぶ問題でした。会話中に参加者の名前が出てくる部分を重点的に解読することで、選択肢②③④は途中で退席、あるいは遅れて参加という事実がつかめるはずで

II

■出題のねらい

書状の形式で書かれた英文の内容（宿泊客からのクレームに対するホテル責任者からの謝罪状）を正確に理解する問題です。第一段落の内容をまずは理解し、書き手と受け取り手の立場を把握することができると、それ以降の内容は類推しやすくなります。ホテル責任者の回答内容は、宿泊客からのクレームの項目分けに基づいているので、段落ごとにその一つ一つの内容を読み取ると、設問への解答が容易になります。

■採点講評

設問によって正答率にかなり差が出ました。この英文の趣旨（謝罪）とその受け取り手を選ぶとをいずれも3人に2人が正解したという点は、英文の全体的内容をおおむね理解できたという点で評価できます。一方で、は6人に1人、は4人に1人しか正答していません。あまりなじみのない語彙が多少あったとしても、基礎的な語彙力・文法力に基づいて類推し、正答に到達しましょう。

III

■出題のねらい

グラフを参照しつつ英文を読み、ポイントとなる情報を的確に読み取る力を問う問題です。ヤンバルクイナの個体数を減らすことになった社会的背景をつかみ、英文の論理の流れや時間的経過を意識しながら読み進めましょう。沖縄特有の話題ですが、ヤンバルクイナだけでなく、ハブやマングースなどは、比較的常識的な知識と言えるでしょう。英語の知識だけでなく、こうした一般的な知識もできるだけ活用することが求められます。

■採点講評

設問 [13] を除いて、正答率は50%前後です。[13] が70%近い正答率というのは、ヤンバルクイナ保護政策の重要な結果の一つを把握できたという点で評価できます。ただし、それ以外の設問で、正答以外の3つの誤った選択肢におおむね均等に選択が分散しています。それぞれの選択肢を厳密に読み取り、情報を本文と照合しながら、的確に正答を選ぶよう心がけましょう。

IV

■出題のねらい

近年注目を集めているリサイクルに関する英文で、この業界の中で特に優れた処理業績を誇る会社の事業内容が説明されています。廃棄物処理関連の難易度の高い語がいくつか出てきますが、惑わされずに構文を読み解いたり、代名詞の指すものを正しく理解したりすることで、内容の的確な把握につながります。この会社特有の事業の工夫については、論理的な思考を働かせて読み取りましょう。数値が関係する情報（廃棄物別のリサイクル率の推移など）にも注意しましょう。

■採点講評

英文の内容をおおむね理解できている人が多かったようです。半数以上の受験者が50%以上の正答率でした。ただし、語彙力・文法力の差が明解に影響を与える設問もありました。たとえば [18] で、前置詞と組み合わせられた関係詞と先行詞の正確な対応を正答できた人は3人に1人しかいませんでした。また [19] では、“resell to X” 「(リサイクルした資源を) Xに転売する」という意味が理解できれば、選択肢②「約50の取引先から受け入れる」という誤答を選ぶことはなかったでしょう。[20] の“they” が指す内容を選ぶ設問は、関係代名詞が省略された直後という位置や、複数形の名詞がいくつも出現している文脈という関係上、かなり

難易度は高いはずですが、正答率70%超でした。なお、この英文には数値に関わる表現が数多く利用されています。理工系分野に進む人にとってはとても基礎的な表現ですので、しっかり学習しておきましょう。

V

■出題のねらい

犬が人からほめられたときの脳の処理に関する英文です。間接疑問や受動態が多く用いられていますが、ごく基本的な文法項目なので、それらを確実に理解している場合は大きな問題は無いと思います。ただし、正答を得るにはそうした文法上の知識だけではなく、英文内容を的確に理解している必要もあることに注意しましょう。

■採点講評

多くの人が、英作文の解答にはやや苦勞したようです。[27]は正答率が70%超でしたが、一方、[28] [29]については40%前後でした。[28]は関係詞 **what** が必要かどうか、[29]は受動態なのか否かを正確に判断することが重要です。文脈を落ち着いて正確に把握することで、確実に正答を選択できるように心がけましょう。